

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0792320012		
法人名	(株)コスモメディカルサポート		
事業所名	グループホーム和の里		
所在地	福島県南会津郡只見町大字小林字七十蒔622-1 (電話) 0241-86-2008		
評価機関名	福島県社会福祉協議会		
所在地	福島県福島市渡利字七社宮111		
訪問調査日	H21.2.25	評価確定日	H21.3.23

【情報提供票より】(平成 21年 2月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 20年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7人, 非常勤 2人, 常勤換算	8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	280 円	昼食	300 円
	夕食	340 円	おやつ	80 円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(2月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護 1	3	要介護 2	2		
要介護 3	3	要介護 4	1		
要介護 5	0	要支援 2	0		
年齢	平均 85.8 歳	最低	74 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	只見町国民健康保険朝日診療所
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然に恵まれた南会津郡只見町に平成20年4月1日に初めて開設されたこのホーム「和(なごみ)の里」は、1ユニット(9名)の平屋建てである。四季の変化はあるときは厳しく、あるときは優しく訪れるが、その変化を日々生活の中に取り入れている。又、地域との交流の中でも特に隣にある保育園の子どもたちとの触れ合いを大切にしている。さらに、利用者も職員も南会津の方々ということもあり、利用者の思いと生活の歴史を理解した上で大切に、一人ひとりのペースに沿った支援を行っている。開設後1年に満たないが、利用者を尊重した質のよいサービスが提供されており、今後一層の充実が期待できる事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回が初めての外部評価である。</p> <p>今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は項目ごとに担当を決め、管理者がまとめた。初めての自己評価であったが、職員全員で取り組むことにより、ねらいや活用方法を共通理解することができた。外部評価の結果、改善点が明確になれば職員全員で改善に取り組むという姿勢がある。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回開催されており、利用者家族や町行政職員の他地域の方々が4名委員となっている。運営推進会議でゴミ集積場所が遠方であると報告したところ、ゴミ収集場所が事業所の前に新たに設置され、地域住民からも喜ばれるようになった。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族へは、契約時に苦情受付担当者がいることを知らせ、家族から率直な意見が出易い様に配慮している。しかし、家族が意見や要望を事業所へ伝えやすいようにする工夫や取組みがあまりなされていない。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の行事には積極的に参加しているため、徐々に地域の一員として認識されてきている。隣にある保育所とは事業所に園児が訪問したり、運動会やお遊戯会等季節の催しに招待されたり、月1回活発な交流が行われている。</p>

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「自分が利用者の立場になったらどのような介護を受けたいか」ということを基本にし、職員全員で話し合い「皆様の声・心に耳を傾け、ともに笑顔で心豊かな生活を送れるようサポートさせていただきます」という理念をつくった。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議やミーティング時等に理念に基づいた実践ができているか確認し共有を図っている。又事業所内に理念を掲示し、理念に基づく支援になる様に心掛けている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事には積極的に参加しているため、徐々に地域の一員として認識されてきている。隣にある保育所とは事業所に園児が訪問したり、運動会やお遊戯会等季節の催しに招待されたり、月1回活発な交流が行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は項目ごとに担当を決め、管理者がまとめた。初めての自己評価であったが、職員全員で取り組むことにより、ねらいや活用方法を共通理解することができた。外部評価の結果、改善点が明確になれば職員全員で改善に取り組むという姿勢がある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は2ヶ月に1回開催されており、利用者家族や町行政職員の他地域の方々が4名委員となっている。運営推進会議でゴミ集積場所が遠方であると報告したところ、ゴミ収集場所が事業所の前に新たに設置され、地域住民からも喜ばれるようになった。しかし、毎回事業所からの報告が主であり、委員同士の話し合いが不十分である。</p>		<p>さらに実のある会議とするために、年6回の会議で報告する内容や話し合う内容をあらかじめ設定するとともに、次回話し合う内容を会議の最後に決め、あらかじめ各委員が意見をまとめておくような会議運営を行ってほしい。</p>
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月施設便りを発行し、利用者の生活状況や事業所の活動内容を家族へ知らせている。その際に、担当者が利用者一人ひとりの様子を一筆そえて家族に報告している。又、職員の異動があれば家族面会時等に知らせている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族へは、契約時に苦情受付担当者がいることを知らせ、家族から率直な意見が出やすい様に配慮している。しかし、家族が意見や要望を事業所へ伝えやすいようにする工夫や取り組みがあまりなされていない。</p>		<p>家族は事業所に対し意見や要望を言い難いということを踏まえ、家族が事業所を訪問する季節の行事の時等に、家族同士懇談する時間をつくるなどして、家族が意見や要望を事業所に伝えやすい雰囲気作りを工夫してほしい。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員は利用者との馴染みの関係を築き、継続して支援する事に努めているが、異動や離職があった場合は引継ぎを行い、利用者への影響が少なくなるように配慮している。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は、毎月開催している職員会議時に行い、外部研修へ参加した職員は内部研修時に内容を他の職員へ報告している。外部研修への参加は、開設1年目ということもあり、職員の半数しか参加しなかった。		今後は、一人の職員が年1回は外部研修に参加できるように計画的に取り組んでほしい。さらに、職員一人ひとりの経験や力量に応じ、目標を持たせた上で計画的に育成するように取り組んでほしい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡協議会に加入し、研修会へ参加した際に同業者と交流している。町主催の研修会にも参加し、町内外の福祉関係者とも交流を行った。しかし、町内の福祉関係者とのネットワークが希薄である。		町内の保健・医療・福祉関係者、特に地域包括支援センターや介護保険事業関係者とケース検討会や学習会を通して交流を深め、積極的にネットワーク作りを行ってほしい。
1. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者のできることを把握しながら、日常生活に対する不安、哀しみ、又は喜びを共感できるよう支援している。職員は、昔からの土地の風習(豊作祈願の早乙女祭り)や言い伝え等を利用者から教えて貰う事が多く、尊敬の念を持って接している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事業所開設時から「認知症介護研究・研修東京センター方式」を取り入れ、各職員が把握した利用者の思いや意向をばらばらに記録せず、利用者ごとの「私の姿と気持ちシート」に利用者担当職員がまとめている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の思いや意向をまとめた「私の姿と気持ちシート」と「私の求めるかわりシート」を職員間で共有した上で、サービス担当者会議において職員間で話し合い、介護計画を作成している。必要に応じて家族やかかりつけ医と連絡を取り介護計画に反映している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、「介護サービス実施状況確認シート」で評価を行い、3ヶ月に1回見直しをしている。また、利用開始間もない利用者は1ヶ月ごと、状態が変化した利用者は必要に応じ臨機応変に介護計画を見直している。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/	/	/

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>家族が受診に同行することを基本に、家族が困難な場合は事業所が受診を支援している。利用者に職員が同行し医療機関で家族と待ち合わせする事もある。家族が同行しない場合は、速やかに受診結果を家族に報告している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>利用開始時に重度化や終末期について家族の意向を聞いているが、事業所としての重度化や終末期に向けた方針を検討中である。</p>		<p>利用者の置かれている状況や家族の意向も踏まえ、さらに町内の医療機関や訪問看護事業所等とも話し合った上で、事業所としての重度化や終末期に向けた方針を決めてほしい。その方針をもとに家族やかかりつけ医と職員が方針を共有してほしい。</p>
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>記録類は事務所に保管している。又、利用者が衣類を気にしている時や落ち着きのない様子の時は、意を察しさりげなくトイレまで誘導する等、プライバシーに配慮しながら支援している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一日の流れはある程度決めてあるが、基本的には利用者一人ひとりのペースに合わせてその人らしい暮らしを支援している。草むしりを日課としてされる方や一人で散歩する方もおり、その方の希望を尊重して支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用開始時に嗜好を把握し、一人ひとりにあった味付けになるよう注意して調理している。誕生日にはお祝いの料理を作るようにしている。職員も会話を楽しみながら食事を楽しんでいる。利用者によっては調理の下ごしらえやテーブル拭き下膳等を自ら行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は土曜日でも日曜日でも毎日対応している。時間も決めていないが主に夕方を希望する方が多い。浴槽も家庭用ではあるが一回り大きく、ゆっくりと入浴を楽しめるようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	洗濯物たたみ、食堂のテーブル拭き、鉢植えの水やり等、利用者が出来ることを把握し、役割や場面づくりを考え、単調な一日にならない様支援している。又、利用者の誕生日や四季折々のイベントの時は、地域のボランティア(踊りや歌)の協力を依頼している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	気候が良い時は、毎日のように外出することになっている。ドライブや買い物、屋外のベンチでの日光浴、又、隣の保育所を訪問する等、外出の機会を作っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関の鍵はかけない。見守り対応マニュアルを作成し、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年間計画を立て月1回避難訓練を実施している。又消防署の立ち会いや近隣住民の避難訓練への参加協力もある。災害時の備えとして二日分程度、必要な物品を用意している。夜間を想定した避難訓練は実施していない。		夜間を想定した避難訓練を実施してほしい。また、地域の協力してくれる住民の役割を具体的に決めた上で避難訓練を行い、災害時に備えてほしい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士と相談し栄養バランスのとれた食事内容になるようにしている。利用者の食事量と水分量を記録し、特に水分量が少なくならないように留意しながら支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には小上がりの畳の間やソファがあり、壁面には季節にあった飾り(お雛様、鯉のぼり、クリスマスツリー等)が付けられている。又、空気が乾燥しないよう加湿器もあり、温度計と湿度計も設置している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者本人が普段使い慣れた物を持ち込んでもらうようお願いしている。昔の仕事道具や位牌、写真等利用者ごとに必要なものが持ち込まれている。又家族によっては季節の変わり目に居室の様態替えをされる方もいる。		

 は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム 和の里
記入担当者名 五十嵐 由美

評価結果に対する事業所の意見
特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目 を記入してから内容を記入してください。